



## 当院の経管栄養について

経管栄養を実施される患者さんのために、栄養剤の種類や投与方法、合併症の対策などを医師の指示のもと、看護師やSTと相談しながら計画を立てたり、調整を図ったりしています。

### ・液体の栄養剤(当院採用:アイソカルサポート)



1P:300kcal(1.5kcal/ml)  
食物繊維グアガム加水分解物含有  
→下痢や便秘の排便コントロールに有効

- 逆流などの問題がない方は第一選択が液体の栄養剤になります
- 在宅や施設、前病院などで液体の栄養剤を利用されていた方

### ・半固形化栄養剤(当院採用:PGソフトEJ)



1P:300kcal(1.5kcal/g)  
粘度 20,000mPa・s  
(十分な粘度がある)

- 逆流のリスクがある方
- 下痢が続く方 ●糖尿病の方
- 注入時間の短縮が必要な方
- 在宅や施設、前病院で半固形化製品を利用されていた方

### ・消化態栄養剤(当院採用:ペプタメンスタンダード)



1P:300kcal(1.5kcal/ml)  
窒素源がペプチドで構成されており、消化吸収能が低下している場合でも負担が少ない

- 長期絶食後、外科術後など消化吸収能が低下している方
- 半消化態栄養剤(通常使用)で下痢が続くなど合併症の改善がない場合

下痢などの消化器症状でお困りの場合、腸内環境を整えるために、ビフィズス菌末の使用をオススメすることも。製品は売店で販売しています!



#### ●追加水の投与について

逆流のリスクが高い場合、水先投与でリスク軽減が図れます。

水は栄養剤よりも胃からの排出が短時間で起こります。

栄養剤は胃から時間をかけて排出させるため、後から水を投与することで胃内容量が増加し、リスクが高まると考えられています。

栄養剤投与前  
20~30分を目安  
に投与して下さい

何よりも大切なことは、患者さんの負担にならない、消化器症状など合併症を起こさないことです。そのため、入院の経緯や併存疾患、治療や状況に合わせて看護師さんやSTさんからの情報を得ながら、医師の指示のもと管理栄養士から経腸栄養プランを提案させていただきます。

## 栄養科からのお知らせ

2017年世界糖尿病デー 11月14日(火)



世界糖尿病デー 2017年11月14日 に合わせて、  
当院では11月16日(木)に「糖尿病を考える会」を開催させていただきます。  
詳細はホームページや院内掲示板などをご覧ください。窓口にお声かけいただいても構いません。皆さまのご参加をお待ちしております。